

卒業論文の要旨

論文題目	「偽りのプライド」vs.「自然なプライド」 ～「呑み込まれ」女子大学生のシェイムへの対応～
氏名	秋本 詩帆
メジャー	コミュニケーション学
(要旨)	
<p>対他者領域の自己肯定感が低い女子大学生はなぜ低いのだろうか。またどうしたら自己肯定感を高められるのだろうか。一般的に自己肯定感が低いことはあまり良いことだとはされていない。女性の場合、高校生から大学生になると対他者領域の自己肯定感は高くなるとされているが、筆者の周りには自己肯定感が低いと感じている女性の友人がいる。大学生になっても自己肯定感が低いままの女性がいるのはなぜだろうと疑問をもった。そこで本研究では、対他者領域の自己肯定感が低い女子大学生についてその理由を明らかにし、どうしたら自己肯定感を高められるのか、解決できる糸口を探すことを目的とした。女子大学生を対象に自己肯定意識尺度の程度を測定するアンケート調査を実施し、対他者領域の自己肯定意識が低い傾向にある女子大学生 4 人を選出した上で、インタビュー調査を実施した。その結果自己肯定感が低い傾向にある研究参加者たちは他者と関わる時、人間関係に「呑み込まれ」て自分の言いたいことが言えずに、人間関係が表面的になっていることがわかった。また、「シェイム」を感じた時、「シェイム」への対処の仕方が複数あることや、「偽りのプライド」と「自然なプライド」という 2 つの「プライド」の保ち方があることがわかった。自己肯定感が低い傾向にある研究参加者たちは、高校生から大学生にかけて「シェイム」にうまく対処することができない、または感受性が豊かなので「シェイム」を受けやすくなっているのではないかと考えられた。「偽りのプライド」ではなく「自然なプライド」を保てるように、安全で信頼できる人間関係を構築することや、自分とは違うタイプの他者と関わることで自分を客体化する機会をつくることなど、自分で自分を傷つけなくても人間関係が良い方向へ向かうことができるという解決の糸口を見出すことができた。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>本論文の最大の貢献は、コミュニケーションにおいて自己を肯定できずに悩む女子大学生に解決の糸口を提供したことである。近年、コミュニケーション方法が SNS 主体になってきたことにより、親しい友人関係において自己肯定感を保てない大学生は増えているように思われる。本論文は、自己肯定感が低い学生にインタビューし、丹念で詳細な質的分析を行うことで、人間関係では必然的に生じる「シェイム」という感情にうまく対処できずに、その人間関係に「呑み込まれ」て、自分の本当の気持ちを抑圧している姿を描き出すことに成功している。そして、「シェイム」に正面から向き合い、自分と異なるタイプの人間と交わることで「呑み込まれ」から脱却し、「自然なプライド」を回復する方法を提案するに至っている。執筆学生は、卒業論文の作成を通じて、自分自身が抱えてきた問題へ真摯に取り組み、困難な分析作業を粘り強く行い、最後まで諦めずに考察を行うことで質の高い論文に仕上げている。まさに、この卒業論文は「一生もの」の内容であり、優秀卒論として強く推薦したい。</p>	